

製品名: BAGE5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07449**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	BAG5
別名	BAG5; KIAA0873; BAG family molecular chaperone regulator 5; BAG-5; Bcl-2-associated athanogene 5
遺伝子 ID	9529.0
SwissProt ID	Q9UL15
免疫原	BAGE5 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 30-110

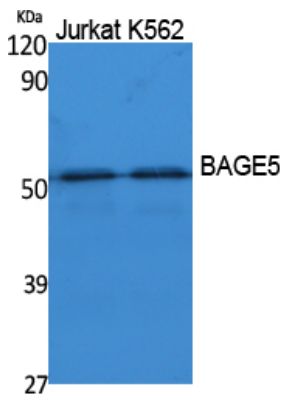
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、BAG1 関連タンパク質ファミリーのメンバーです。BAG1 は抗アポトーシスタンパク

質であり、BCL-2、Raf タンパク質キナーゼ、ステロイドホルモン受容体、成長因子受容体、熱ショックタンパク質 70 kDa ファミリーのメンバーなど、様々な細胞アポトーシスおよび増殖関連タンパク質と相互作用することで機能します。このタンパク質は C 末端付近に BAG ドメインを有し、これが Hsc70/Hsp70 に結合してシャペロン活性を阻害する可能性があります。この遺伝子には、2 つの異なるアイソフォームをコードする 3 つの転写バリエーションがみついています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: 基質遊離を促進することで HSP70/HSC70 のシャペロン活性を阻害します。 PARK2 の自己ユビキチン化と PARK2 による標的タンパク質のユビキチン化の両方を阻害する。、類似性:4 つの BAG ドメインを含む。、サブユニット:HSP70/HSC シャペロンの ATPase ドメインに結合し、PARK2 に結合する。、

研究分野

画像データ



BAGE5 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。